令和4年度　東久留米市立 南町小学校　　学校評価報告書

学校教育目標	〇よく考える子 〇心の豊かな子（今年度重点目標） 〇じょうぶな子	教育ビジョン	【目指す学校像】 〇子供たちが安心して通うことができ、楽しさや喜びがたくさんある学校 ・挨拶が行き交い、子供たちの笑顔があふれる学校　・保護者、地域と子供を共に育てる（共育）学校
			【目指す児童・生徒像】 〇共に学び認め合い、主体的に行動する子供 ・自ら考えたり判断したりして、伝え合いながら学ぶ子供　・自他のよさや違いを認め合い、自分や友達を大切にする子供　・心身の健康や安全に留意し、粘り強く取り組む子供
			【目指す教師像】 〇一人一人を大切に、明るく温かく、足並み揃えた指導をする教師 ・子供たちに愛情をもって丁寧な指導をする教師　・指導力と児童理解力の向上を目指して学び続ける教師　・教育公務員の自覚をもち、服務の厳正に努める教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】〇一人一人を大切に、温かく丁寧な指導をすることにより、児童同士の人間関係が安定し、不登校やいじめ、学校での大きなけが等の件数が減少した。 〇3年間の外国語活動及び外国語の校内研究により、教師の指導力が向上したことで、児童が英語でのやりとりを楽しみ、自分の思いを進んで表現しようとする姿が見られるようになった。 【課題】〇児童が様々な場面でより主体的に学習や活動に取り組むように、指導や活動をさらに工夫する必要がある。そのために、教師の指導力向上の方策として、さらにOJTの充実を図っていく。 〇保護者や地域から信頼される開かれた学校づくりのために、新型コロナ感染症対策を確実に行いながら、学校行事や保護者参観等、教育活動の公開方法や情報発信を工夫する必要がある。		

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	（令和6年度までの3年間）	（1年間）	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	Ⅰ　健全育成	個性を認め合う教育の推進	人権教育の推進	人権尊重の理念に基づき、全ての教育活動を通して「相手を思いやる心」「自他の生命や人権を尊重する心」など、心の教育の充実を図る。	感染症対策を徹底しながら行うことができる、交流学習等を含めた人権教育年間指導計画の実施と充実	教職員の十分な取組 4：90% 3：80% 2：70% 1：70%未満	児童及び保護者アンケート「学校は楽しい」の肯定的評価 4：90%　3：80% 2：70%　1：70%未満	4	4	4	(1)児童が「学校は楽しい」と思って通っていることは嬉しいことである。(同様2) (1)登下校時、子供たちの元気な姿をよく見かけ、挨拶をしてくれる子もいる。地域で見守っていきたいと思う。	児童の「学校は楽しい」の肯定的評価は93%、保護者の「楽しみに登校している」は92%であった。 今後も人権尊重の理念に基づき、全ての教育活動を通して「相手を思いやる心」「自他の生命や人権を尊重する心」など、心の教育の充実を図る。
2	Ⅰ　健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	道徳及び特別活動を中心とした授業及び教育活動の改善を推進する。	〇JTや相互参観等による教員の道徳授業力及び児童理解力の向上 児童の人間関係形成能力の育成・道徳的心情及び判断力・実践力の育成	教職員の十分な取組 4：90% 3：80% 2：70% 1：70%未満	児童「仲の良い友達がいる」保護者「心の豊かな子の育成」の肯定的評価 4：90%　3：80% 2：70%　1：70%未満	4	4	4	(3)いじめ問題では、「嫌なことをされていない」が「していない」と同じくらいになるとよい。自分はしていないと思っていても、相手が「されている」と思うのは人の感じ方の違いで難しい。	児童の「仲の良い友達がいる」の肯定的評価は97%、保護者の「互いに認め合い自他を大切にする指導を行っている」は92%であった。 今後も道徳及び特別活動を中心とした授業及び教育活動の改善を推進する。
3	Ⅰ　健全育成	いじめ問題への対応	教育相談体制の充実	いじめの未然防止と早期発見及び対応のための組織的な指導・対応体制を確立する。	学校生活アンケート等によるいじめの早期発見と対応 いじめ総合対策（第2次）を活用したいじめ防止授業の実施	教職員の十分な取組 4：90% 3：80% 2：70% 1：70%未満	児童「友達に嫌なことをしていない」「嫌なことをされていない」の肯定的評価 4：90%　3：80% 2：70%　1：70%未満	4	3	3.4	(3)いじめに限らず、学校で困ったことがあったり悩み事や心配事があった時に、子供の変化に気付けるように学校と家庭で見守っていく必要がある。子供たちが相談しやすい環境、学校と保護者の連携も今以上に取り易くなるとよい。	児童の「友達に嫌なことをしていない」は92%、「嫌なことをされていない」は88%であった。 今後もいじめの未然防止と早期発見及び対応のための組織的な指導・対応体制を確立する。
4	Ⅰ　健全育成	生涯にわたって育む健やかな体づくり	体力向上に関する指導の充実	継続的な体力づくりの習慣の形成と、健康や体力づくりに関する意欲を高める体育指導を推進する。	体育・体力向上及び「東京2020レガシー」年間指導計画の着実な実践 児童の体力・運動能力の実態に即して、感染症対策に留意した取組の工夫	教職員の十分な取組 4：90% 3：80% 2：70% 1：70%未満	児童アンケート「すすんで運動や外遊び」保護者「丈夫な子の育成」の肯定的評価 4：90%　3：80% 2：70%　1：70%未満	3	3	3.4	(4)体力が落ちているのは、今は昔と比べて外遊びが少なかったり、遊ぶ場所が少なかったり、ゲームが主流だったりすることも原因だと思う。	児童の「学校ですすんで運動や外遊びをしている」の肯定的評価は76%、保護者の「運動に親しみ健康に生活する指導を行っている」は92%であった。 今後も継続的な体力づくりの習慣の形成と、健康や体力づくりに関する意欲を高める体育指導を推進する。
5	Ⅱ　学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	カリキュラムマネジメントを推進し内容の精選を行うことで指導時数を確保し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指す。	国語を校内研究教科として年4回の研究授業と計画的な年間指導の充実 月2回の「タブレットタイム」を中心とした各学年でのタブレットの活用	教職員の十分な取組 4：90% 3：80% 2：70% 1：70%未満	児童アンケート「授業の内容はよく分かる」保護者「分かりやすい授業」の肯定的評価 4：90%　3：80% 2：70%　1：70%未満	3	3	3.4	(5)授業参観した時、子供たちが教師の話を聞こうとする姿勢が前向きに感じられた。 (5)(6)特に低学年のうちは、家庭で親と一緒に勉強（復習）することも大切だと思う。	児童の「授業の内容はよく分かる」の肯定的評価は93%、保護者の「分かりやすい授業を行っている」は89%であった。 今後もカリキュラムマネジメントを推進し、内容の精選を行うことで指導時数を確保し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指す。
6	Ⅱ　学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	算数科での習熟度別指導において、児童の習熟度に応じた指導内容を工夫し、個別指導を充実させる。	朝学習での東京ベーシックドリルの活用及び到達度の検証と指導の改善 学力パワーアップサポーターを活用しての個別指導	教職員の十分な取組 4：90% 3：80% 2：70% 1：70%未満	第6学年の全国学力調査における算数の平均正答率 4：70%　3：60% 2：50%　1：50%未満	3	2	3	(6)学力調査の結果だけで成果を判断するのは、経営目標に照らして不十分と考える。 (6)市内の他校に比べてタブレットの活用が遅れていると思う。もう少し上手に使ってほしい。	算数について、全国学力調査の平均正答率は59%（全国は63%）であった。全国と比較すると、上位層が少なく中・下位層が多い傾向だった。 今後も算数科での習熟度別指導において、児童の習熟度に応じた指導内容を工夫し、個別指導を充実させる。
7	Ⅱ　学力向上	確かな学力の育成	言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成	各教科において、話合い活動を十分に取り入れるとともに、「話す・聞く」活動に重点を置いて児童の表現力の育成を図る。	感染症対策に留意した話合い活動の充実 「話す、聞く、発表、記録、要約、報告」の力を高める学習の充実	教職員の十分な取組 4：90% 3：80% 2：70% 1：70%未満	児童アンケート「思いや考えを人に伝えられる」保護者「よく考える子の育成」の肯定的評価 4：90%　3：80% 2：70%　1：70%未満	4	3	3.6	(7)自分が思ったことを人前で話せることは、大人になっても有効。コミュニケーション能力の育成は、これからの国際社会の中で生きるのに不可欠な能力である。日々の授業での工夫や支援の充実が重要である。 (7)コミュニケーション能力はとても大切だと思う。昔の子に比べて、人前で話をしたり人に思いを伝えたりする機会が増えている。誰もがそういう機会を持てるのはよいと思う。	児童の「思いや考えを人に伝えられる」の肯定的評価は76%、保護者の「すすんで考え表現する指導を行っている」は93%であった。 今後も各教科において、話合い活動を十分に取り入れるとともに、「話す・聞く」活動に重点を置いて児童の表現力の育成を図る。
8	Ⅲ　教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	組織体としての学校機能の強化	生活指導部を中心に、学校生活と登下校時の安全、給食アレルギー対応及び新型コロナ感染症対策の推進を図る。	月1回の安全指導と安全点検の確実な実施、事故やヒヤリ事案があった際の確実な対応と再発予防、家庭・地域との連携	教職員の十分な取組 4：90% 3：80% 2：70% 1：70%未満	昨年度の学校でのけがによる病院受診件数に対して 4：90%　3：100% 2：110%　1：110%以上 給食アレルギー事故0件	3	3	4	(7)話したいことや伝えたいことをもう少し上手に表現できるように工夫してほしい。	12月までの学校でのけがによる病院受診件数は21件で、昨年度の同じ時期と同数であった。給食アレルギー事故は0件であった。 今後も生活指導部を中心に、学校生活と登下校時の安全、給食アレルギー対応及び新型コロナ感染症対策の推進を図る。
9	Ⅲ　教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	一人一人の児童の個性や特性に応じた指導方法及び内容を工夫し、学校全体で適切な支援と指導を共有する。	特別支援校内委員会を活用した対象児童の把握 保護者、SC、関係機関との支援の連携	教職員の十分な取組 4：90% 3：80% 2：70% 1：70%未満	児童アンケート「困ったときに相談できる人が学校にいる」の肯定的評価 4：90%　3：80% 2：70%　1：70%未満	4	4	4	(8)下校時に通学路の歩道に横並びになったりふざけ合って歩いている子供たちを見かけ、いつか大けがをするのではと心配になる。学校でも家庭でも指導が必要だと思う。 (10)コロナ感染症対策をしながら運動会や展覧会を行えたのはよかった。	児童アンケートで、「困ったときに相談できる人がいる」の肯定的評価は94%であった。 今後も一人一人の児童の個性や特性に応じた指導方法及び内容を工夫し、学校全体で適切な支援と指導を共有する。
10	Ⅲ　教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	特色ある教育の実現に向け、地域や外部人材の学校教育への参加を推進し、体験活動を充実させる。	感染症対策に留意しながら、各学年の教育活動における外部人材の積極的な活用	教職員の十分な取組 4：90% 3：80% 2：70% 1：70%未満	保護者アンケート「期待している水準の教育ができている」の肯定的評価 4：90%　3：80% 2：70%　1：70%未満	4	4	4	(10)大変だが、感染症対策に留意しながら安全・安心な学校づくりを期待している。 (10)地域や外部の人材を生かした体験活動は大いにやるべきだと思う。	保護者アンケートで、「期待している水準の教育がなされている」の肯定的評価は92%であった。 今後も特色ある教育の実現に向け、地域や外部人材の学校教育への参加を推進し、体験活動を充実させる。